

配当年次・単位・授業形態	4年次	開講期	後期	必修	1単位	演習
授業科目(英名)	看護総合演習 (Overall Combined Nursing Seminar)					
担当教員名	◎山田 秀樹[専任] 桐明 輝迪[専任] 伊藤 千春[専任] 井上 寛隆[専任] 原田 瞳[専任] 掛谷 和美[専任] 横田 美佳[専任] 恵良 真理子[専任] 八木 範子[専任] 小寺 栄子[専任] 他看護学部の専任教員 (◎は科目責任者)					
[授業の概要] 看護者は、他者の力を必要としている対象に即して自己の持てる力を働かせていく専門職者である。この、どのような対象にも応じて自在に看護を行える看護実践能力を修得するためには、多くの人と認識を交わし合う中で、対象の描き方を実践的に錬磨するとともに、相手にとっての自己の関わりの意味を自己評価する力を高めながら学びを進めることが大切である。 そこでこの科目では、さまざまな事例の対象に対する看護・保健による援助について、個々の力をグループでの事例検討に差し出し合いながら、対象の援助の必要状況を具体的に読みとって状況に応じた援助内容を構築していく過程を演習として辿っていく。その過程を通して、対象の健康状態や生活の場の実際の状況に応じながら、看護や保健の知識・技術・態度を自在に応用させて問題状況を読みとり・読み替えて、看護を対象の状況に応じて統合的に展開している看護実践能力の修得を進める。						
[到達目標] 4年間の看護学カリキュラム各分野で学んだ知識・技術・態度を統合して、看護の対象と看護が展開される状況を読みとり、状況に応じた臨床実践を可能にする看護実践能力を修得する。以下の4つの目標を到達するために、科目のねらいに即した学習目標を内容的に提示し、授業での取り組みが形式的にならないよう学びを進める。 1) 事例の状況を読みとり、事例の持つ課題を的確に抽出できる。 2) 対象の状況に応じた援助の方法を計画できる。 3) 計画した援助への対象の反応を見つめながら実施・評価・修正できる。 4) 看護の状況に応じた看護実践の展開能力を自己評価し、課題を見出すことができる。						
回	授業計画	授業外学習(事前学習・事後学習)			担当者	
1	科目オリエンテーション 科目の位置づけ、学習のねらいと学習の取り組み方の理解、学習グループづくり	事前学習: シラバスの確認(30分) 事後課題: 科目の位置づけと学修内容・方法を確認(30分)			山田、桐明 伊藤、井上 原田、掛谷 横田、恵良 八木、小寺	
2~6	①事例提示、グループ毎に事例選択、決定後に資料収集 ②グループで事例(対象や場など)の状況理解、事例の全体像整理 ③読みとった事例状況から問題状況を明確化、看護の必要性または看護上の問題の明確化 ④看護展開の方向性を検討し目標設定、看護の計画立案、計画実施のロールプレイを企画				桐明、山田 伊藤、井上 原田、掛谷 横田、恵良 八木、小寺	
7~8	全体発表(成果発表) ロールプレイ、グループでふり返り評価・修正	[第2-15回] 事前学習: 前回の内容を確認しておく(30分) 事後学習: 今回の内容を復習する(30分)			看護学部 全教員	
9~12	事例の追加設定検討 ①事例の追加設定(技術確認の課題)の提示、追加設定の理解と看護介入についての検討 ②対象に最も必要な看護介入の実施内容検討と計画立案、計画の整理記述 ③看護の計画立案にもとづいた個人・グループでの実施準備	個人の力の結集がグループでの学習の資源になることを意識して、授業外での学習準備やふり返りのもとで授業に臨む。時間と大学の資源を有効に活用して学習を進めること。 以下に留意して各回の学びを進める 【事前学習】では、自己の関心を広げながらとり組んでグループ学習に参加する。			桐明、山田 伊藤、井上 原田、掛谷 横田、恵良 八木、小寺	
13~15	援助実施と評価 ①事例の追加設定についての計画立案及び援助実施の確認、グループ単位での実施・相互評価 ②学習の到達状況の個人・グループ、全体でのふり返り、学びつかった成果・課題の整理	【事後学習】では、授業でのグループ学習のふり返りと課題達成のワーク、成果発表のための練習のくり返しなど、個人やグループで主体的に学修を進める。			看護学部 全教員	
	ふり返り・まとめ				桐明、山田 伊藤、井上 原田、掛谷 横田、恵良 八木、小寺	
成績評価と基準	授業での課題達成・参加状況、成果発表、課題・レポート・試験(技術確認を含む)を総合して評価します。なお、本科目には成績評価を受けるための前提条件があります。					
履修上の注意	本科目の単位認定は、統合試験に合格することが前提条件となります。 全看護専門領域の教員が学びを支えます。統合的な見方・考え方で看護実践を創り上げてください。					
全学年を通しての関連科目	看護学部カリキュラムの全ての科目の学びが基盤となります。看護を支える専門的知識や思考・判断力や計画・実施・評価する実践力を個人やグループでの学びに生かし、よい看護を目指して力尽くしていきましょう。					
[ディプロマポリシーとの関連]	看護の統合科目として全てに関連しますが、特に4.3.5.6.の育みに関連します。					
教科書	プリント配付、他関連科目のテキスト・資料を活用する。					
参考書・参考資料等	必要時紹介、他学習に応じて必要な書籍・雑誌、資料を各自で準備する。					
オフィスアワー	開講期間中、教室や研究室、実習室にて担当科目に関する質問を受け付けます。					